

事例 鳥獣害対策

■ LPWA サービス導入の背景

□LPWA 導入の背景

野生鳥獣により、農業従事者の経済的損失が増大している。そのため、わなによる駆除を行っている。しかしながら、定期的にわなの設置場所を巡回する必要がある、時間的コストがかかってしまう。また、わなの場所は、設置した担当者以外が特定することは難しい状況である。

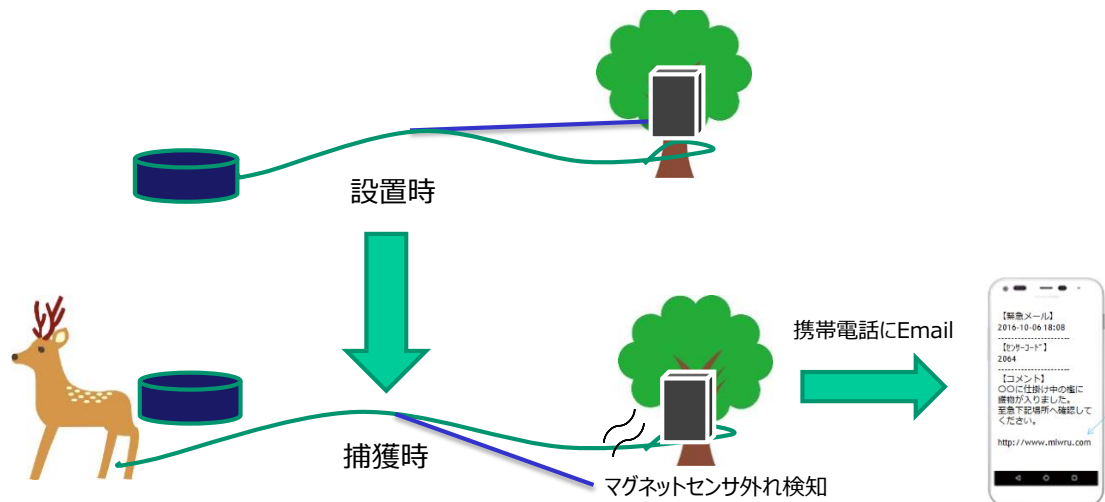
□LPWA 導入の目的

わな検知及び設置場所の GPS を搭載した LPWA 通信デバイスを導入することにより、定期的な巡回を不要とし、また設置場所についても誰でも特定することができるようにする。

■ 実証実験の取組内容について

□取組概要

設置したくり罠の捕獲状況や設置場所について、設置担当者以外でもパソコンやスマートフォン上で容易に確認できるようにし、わなを設置した担当者以外でも負担を感じることなく携わる事ができる鳥獣被害対策を実現する。

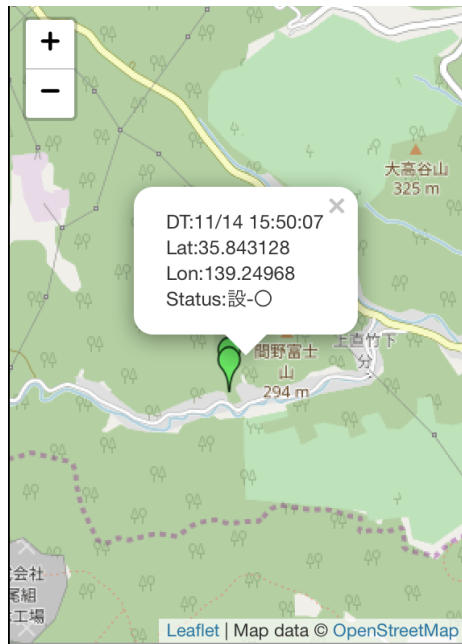


□導入した機器



<捕獲検知センサー>

□ サービス利用イメージ



<わな位置情報・捕獲状態 確認画面>

□ 取得データの概要

設置時：設置日時、設置場所、わな ID、わな状態(設置済み)

通常時の定期送信：送信日時、わな状態(未捕獲)、電池残量

捕獲時：送信日時、わな状態(捕獲)、電池残量

■ 導入効果

- ・ 捕獲検知したわなを優先的に確認できるため人的リソース負荷が軽減できた。
- ・ 捕獲時の通知及び地図上でわなの場所が表示されるため、迅速な回収が可能となった。
- ・ 省電力で通信できるため、わな検知の装置を乾電池で長期間運用できる。

■ サービス提供事業者

アイ・サイナップ (株)